

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成23年度研究開発実施報告書

研究開発プログラム

「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」

研究開発プロジェクト

「社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり」

研究代表者：中林美奈子
(富山大学大学院 医学薬学研究部 准教授)

1. 研究開発プロジェクト名

社会資本の活性化を先導する歩行圏コミュニティづくり

2. 研究開発実施の要約

①研究開発目標

高齢者が積極的に街に出て、活発に交流し、生活を楽しむコミュニティを「歩行圏コミュニティ」と定義し、富山県富山市中心部の星井町地区でアクションリサーチを行い、歩行圏コミュニティ実現の条件を提示する。

まず、都市中心部における歩行圏コミュニティの実現において、虚弱高齢者が楽にまちを歩ける「歩行補助車」の整備が基盤的条件であることを示す。次に当該地区において歩行補助車の活用を基軸とした「住民がまちを歩きたくなる仕掛けづくり」を行い、それが当該地区高齢者の健康増進と生き生きと交流する生活圏形成に繋がることを明らかにし、高齢社会における歩行圏コミュニティの都市文化の普及発展を唱導する。

②実施項目・内容と主な結果

平成23年度はプロジェクトチームの結成と次年度以降に行う歩行支援プロジェクト事業の準備を行った。

(1) プロジェクトチームの結成と体制整備

大学関係者、星井町地区住民（自治振興会、長寿会等）、富山市関係者、プロジェクト事業に関わる事業所・団体の関係者等、多様な地域のステークホルダーからなるプロジェクトチーム「歩行圏コミュニティ研究会」を組織した。この研究会は大学関係者による「定例会」とメンバー全員による「研究会」から構成し、期間中にface to faceの定例会を8回（延112名参加）と研究会を3回（延96名参加）開催した。研究会では、①プロジェクト事業の具体的な事業計画の立案、②メンバーの相互理解の進展を目指した会議運営を行った。

(2) 「歩行補助車」のカスタマイズ

本プロジェクト開始時、既に既存の機器に不足していた立ち上がり機能や姿勢保持機能を加えた一次試作機の開発は終了していた。平成23年度は一次試作機に水平スタッキングを加えてコミュニティツールとしても活用できるようにした。

(3) 虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と評価プロジェクト

対象の選定基準・選定方法、実施内容、評価デザイン、倫理的配慮等を記載した「プロジェクトBの実施・評価計画（案）」を作成し、その実行に必要な用紙類や物品等を準備した。また、対象者募集に関してプライマリーインフォーマントの役割が期待される地区高齢者に本研究開発の内容を説明し、プロジェクト事業の周知を図った。

(4) コミュニティを対象とした歩行支援の実施と効果の評価プロジェクト

市中心部における歩行圏コミュニティ実現の可能性、必要な対応策を検討するために、地区高齢者との座談会を開催した。その後、対象の選定基準・選定方法実施内容、評価デザイン、倫理的配慮等を記載した「プロジェクトCの実施・評価計画（案）」を作成し、その実行に必要な用紙類や物品等を準備した。

3. 研究開発実施の具体的内容

(1) 研究開発目標

長寿化と後期高齢者の増加に伴い、身体機能が低下し自立した生活が難しくなる「虚弱」の状態が長期にわたる高齢者が増加しており、その期間の生き方や支え方が重要な課題となっている。富山県富山市ではコンパクトなまちづくりの実現に向けて公共交通の活性化と歩行圏の形成を推進しており、ライトレールの導入や市内電車の環状化、自転車市民共同利用システム等の整備が進んでいる。

本プロジェクトでは富山市の中心市街地を対象に、歩行補助車を公共ツールとして活用することで、元気な高齢者だけでなく身体が弱くなった高齢者も積極的に街に出て、生き生きと交流を楽しむことのできる生活圏の形成を目指す。

高齢者に対する歩行支援には高齢者個人へのアプローチと良好な社会環境の整備が含まれるが、現行の歩行支援は通所型身体トレーニングにより歩行機能低下の防止を目指す高齢者個人へのアプローチが主である。しかし、今後増加が見込まれる後期高齢期は虚弱化に伴う心身機能の低下が大きく、高齢者個人への努力を基盤とした身体トレーニングのみでは歩行機能を維持することが困難になってくる。身体トレーニングに加え、低下した歩行機能を補完するための道具（歩行支援ツール）の利用ならびにそれを使うということに対する価値を受け入れる社会環境の整備が不可欠である。

歩行支援ツールには杖、歩行車、シルバーカー、車椅子、電動自動車、歩行支援用電動アシスト機等が挙げられるが、本プロジェクトでは単なる移動手段にとどまらず、高齢者の生きる原動力に繋がる「自力で歩く」という行為にこだわり、動力装置を用いない歩行補助具に注目し、杖やシルバーカーより安全、快適で機能性の高い「歩行補助車」を用いた歩行圏コミュニティをデザインする。

本プロジェクトでは、元気な高齢者も、虚弱化により歩行支援機器を使う人も、車椅子の人も、みんなが外に出て生き生きと交流し、結果として街に賑わいが生まれ、コミュニティが活発になることを目指す。研究対象地域である「星井町地区」は、富山市唯一のデパートがある商業中心地区に隣接した高齢化率30%を超える旧富山市第2位の長寿地区である。かつては商人が富山市岩瀬浜で水揚げされたブリをかついで飛騨方面に通う「ブリ街道」（旧飛騨街道）の起点であり、往時は商店が立ち並び大変賑わいのある地域であったが、現在は空き地や駐車場が多数点在し、人通りも少なくなっている。

本プロジェクトは保健・福祉・都市整備という横断型の行政、商店街、自治振興会、長寿会などの地区代表者と話し合いながら、地区内の介護予防センターや商店街、隣接する商業中心地区を中心に、星井町地区の高齢者が歩いて行ける範囲のコミュニティを活性化させる社会実験を行う。地域住民と協働で実践介入を行うことにより持続可能な取組み成果を当該コミュニティに残すことができる。現在、歩行補助車は病院や福祉施設の中など限られた場所でのみ使われておらず、屋外で見かけることはほとんどないが、歩行補助車がコミュニティの高齢者の生活を助け、そのコミュニティでは見慣れた風景となれば歩行補助車はコミュニティの文化となる。道具の助けを多少借りながら自分で歩いて住み慣れた地域で普通の生活をする。それが本プロジェクトの目指す高齢社会のデザインである。

(2) 実施方法・実施内容

【実施方法】

本研究では富山県富山市星井町地区でアクションリサーチを行い、都市中心部における

歩行圏コミュニティ実現の条件を提示する。研究期間（3年間）をかけて図1に示す3つのプロジェクト事業を行う。各プロジェクトの研究開発目標は以下の通りである。

1. プロジェクトA：プロジェクトチームの結成と体制整備

「歩行圏コミュニティ研究会」を軸としたプロジェクトチームの結成と体制整備を行ない、その整備が地域住民との協働を促進するための基盤となることを検証する。

2. プロジェクトB：虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と効果の評価

在宅で生活する虚弱高齢者を対象に「歩行補助車」を用いた歩行支援を行い、その支援が健康増進ならびに歩行範囲の拡大に有用であることを検証する。

3. プロジェクトC：コミュニティを対象とした歩行支援の実施と効果の評価

地域住民と協働で歩行補助車の活用を基軸とした「地区の人々が歩きたくなる仕掛けづくり」を行い、その取組みが地区高齢者の健康増進ならびに生き生きと交流する生活圏形成に繋がることを明らかにする。

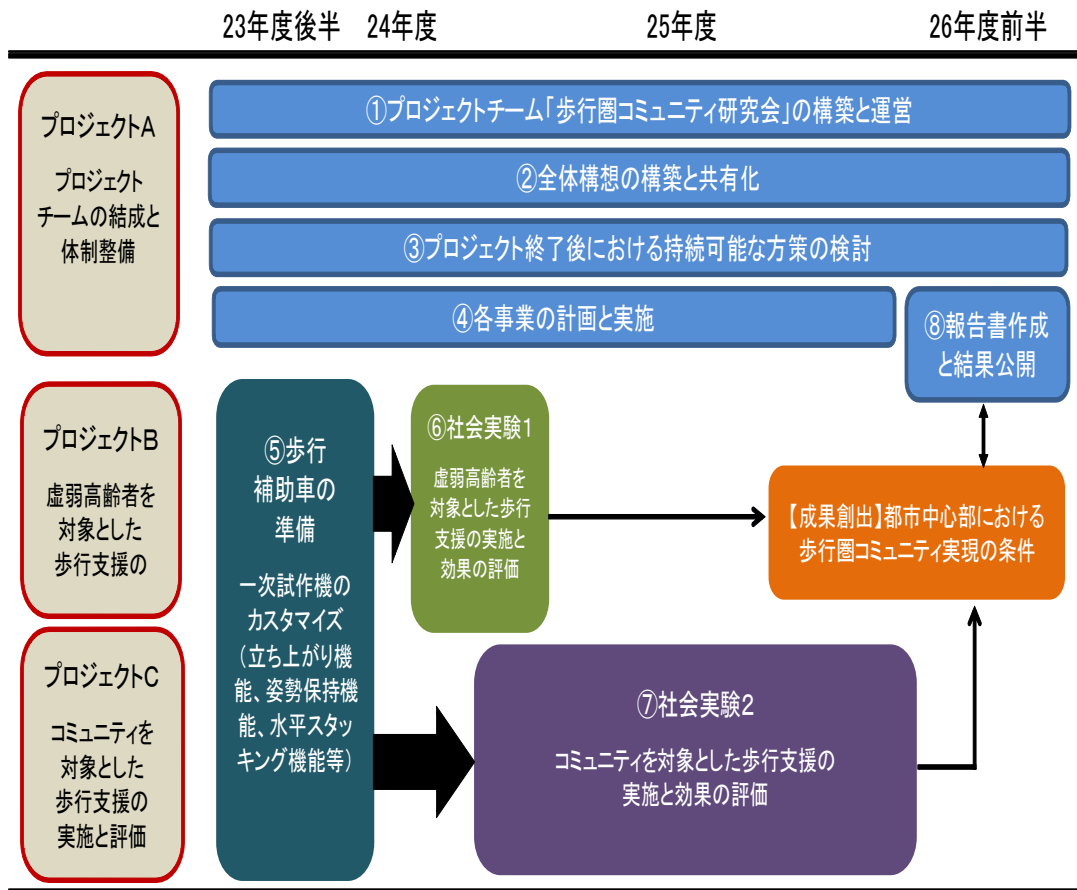


図1. 開発実施の流れ

【実施内容】

平成23年度は3つのプロジェクト事業について構想を具体化し、プロジェクトメンバーとの関係性を構築する中で具体的なプロジェクト事業計画の立案を目指した。その内容を以下に示す。

■プロジェクトA：プロジェクトチームの結成と体制整備

本研究の成果を創出することを目的としたプロジェクトチーム「歩行圏コミュニティ研究会」を組織した（図2）。大学関係者、星井町地区住民（自治振興会、長寿会等）、富山市関係者、プロジェクト事業B・Cに関連する組織・機関の関係者に研究会の目的や活動内容について説明し、本人の自由意思により入会を募った。平成23年3月末現在、図2に示す組織・機関から35名の入会があった。

「歩行圏コミュニティ研究会」は大学関係者による「定例会」と入会メンバー全員による「研究会」から構成し、期間中にface to faceの定例会を8回（延112名参加）と研究会を3回（延96名参加）開催した。平成23年度の研究会では、①プロジェクトB・Cの具体的な事業計画の立案、②メンバーの相互理解の伸展を目指して会議を運営した。

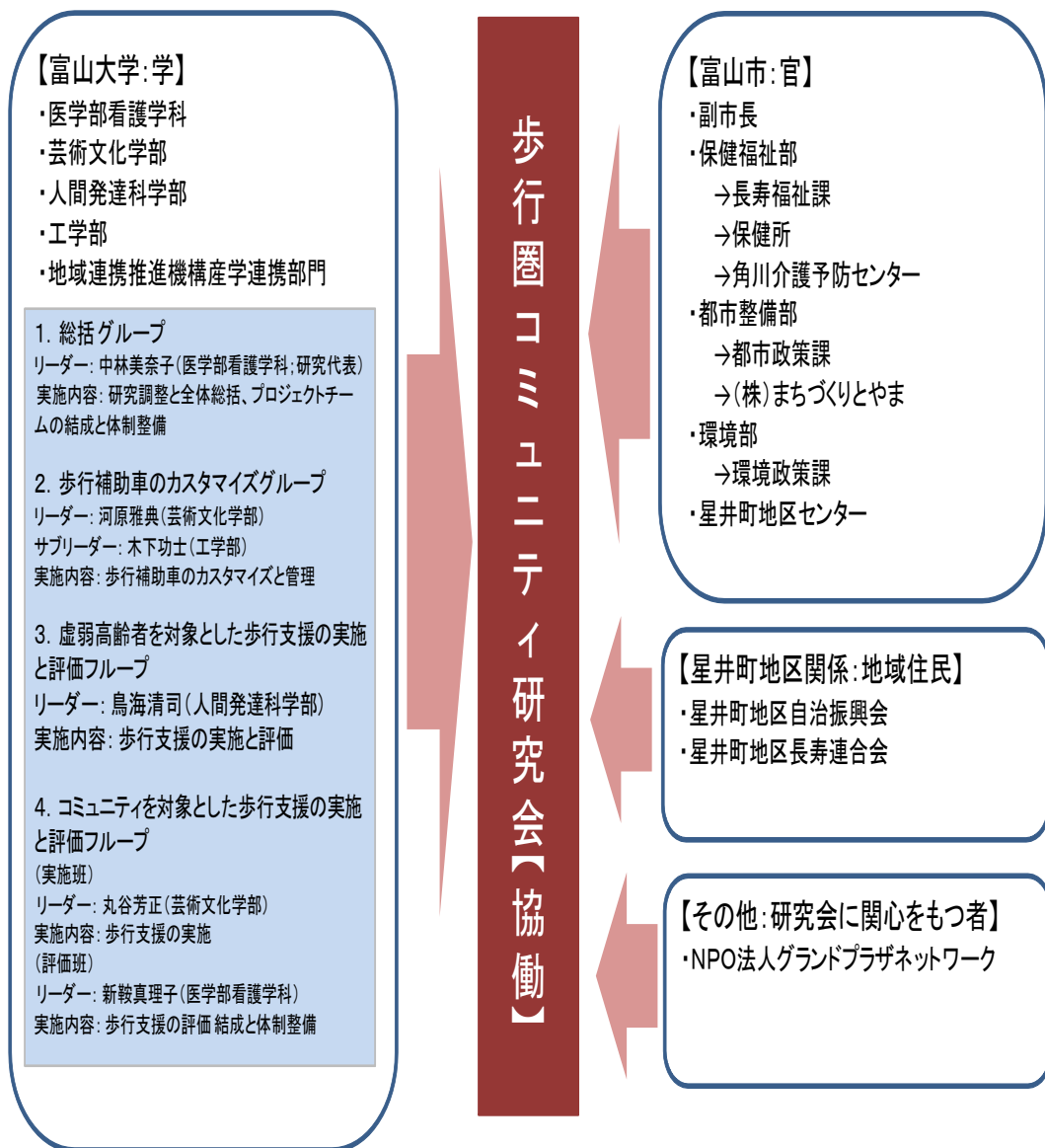


図2. 歩行圏コミュニティ研究会

■歩行補助車のカスタマイズ

プロジェクトB・Cで用いる歩行補助車の準備を行った。本プロジェクトでは以下の理由から独自の「歩行補助車」を用いることを計画した。その理由は、①高齢者の歩行支援に用いる歩行補助車には立ち上がり機能や姿勢保持機能を有していることが不可欠であるが、既存の市販機器にはその機能が不足している。②プロジェクトCではコミュニティツールとなる歩行補助車が必要である。歩行補助車のコミュニティツール機能としては省スペースのために水平にスタッキング（積み重ねての収納）できることが不可欠であり、既存の機器には該当するものがない。③一次試作から地域住民と一緒に地域の大学で開発され、地域のメーカーで作られた器具をコミュニティづくりに用いることの意義は市民意識の面からはもちろん地元産業振興の面からも大きいと考えるからである。

本プロジェクト開始時、既に既存の機器に不足していた立ち上がり機能や姿勢保持機能を加えた一次試作機の開発は終了していた。表1に示す通り、平成23年度はグループ会議を8回開催し、一次試作機に水平スタッキングを加えてコミュニティツールとしても活用できるようにカスタマイズした。一次試作機（写真1）をカスタマイズした歩行補助車の図面（写真2）が完成し、県内の車椅子メーカーに生産発注した。

表1. カスタマイズグループ会議の内容

回数	内容
第1回	①スタッキングとトレッド寸法、②個人用と公共用との違い検討、③生産計画
第2回	①ハンドル名称確認、②座面幅、背もたれ高さの検討、③ハンドルの開き角12.5度、④バッグ取り付けアダプター、⑤スピードコントローラー検討
第3回	①折りたたみ機構検討、②ハンドル上下可動範囲、③公共用は折りたたみなし、個人用と基本構造同じ、ハンドル高さ固定、④前輪トレッド幅360ミリ
第4回	①スタッキング時の干渉部位検討、②ワイドタイヤは今回断念、③折りたたみグリップ・シートの検討、④ショッピングバスケットの置き方検討、⑤カラーリング検討、⑥生産計画3月末納品依頼
第5回	①ハンドル高800-1000、②座受け、シート形状材質、シート跳ね上げ時固定法検討、③ショッピングバスケット固定法検討、④カラー候補決定、研究会にて検討、⑤メーカーから試作機納品
第6回	①試作機検討の結果、基本構造の再検討を次回行う、②次回までにモデル作製、③構造見直しに伴い年度内納品が不可能となり、繰越など会計に関する調整を行う
第7回	①基本構造の見直しはモデル作製が間に合わず次回行う、②クリックフィックスシステム取り付け穴寸法決定、③カラー（赤）系統サンプルを作り次回検討
第8回	①予算繰り越し可能となり、4月下旬～5月上旬納品予定、②シミュレータによる基本構造の見直し取りやめ、修正した図面を元に以下を修正した（ハンドルポストから前輪車軸まで、ハンドルポストから後輪車軸までを調整し、ホイールベースを550mm）（折り畳み操作時、ロックバーと座面固定部品の間指が挟まる恐れがあるための間隔の調整）（背もたれ位置の修正）③赤系統の3色を塗装見本で確認、④傘、または雨具について検討



写真1. 一次試作機

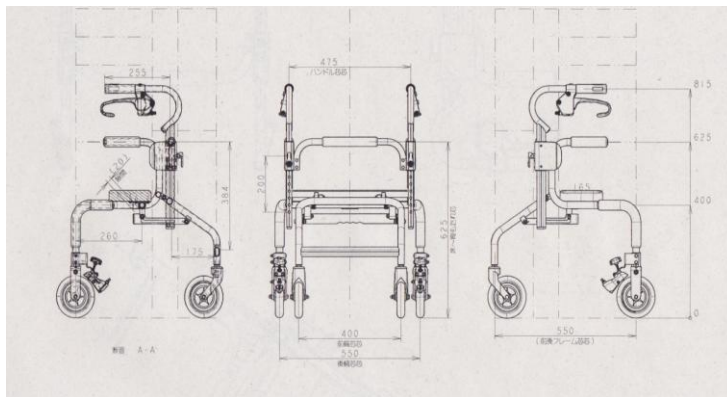


写真2. カスタマイズした歩行補助車の図面

■プロジェクトB：虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と効果の評価

1. 「プロジェクトBの実施・評価計画（案）」の作成

プロジェクトBのグループリーダーが以下の項目に関する素案を作成し、定例会で「プロジェクトBの実施・評価計画（案）」にまとめた。

2. プライマリーインフォーマントとの関係づくり

対象者の選定にあたっては、地区全世帯に社会実験モニター募集マニュアルを配布し、公募による募集とした。地区住民が応募行動を取るか否かは、身近に本プロジェクトに関する情報を提供してくれるインフォーマントの存在の有無によると考えた。そこで、地区において参加者募集に関わるプライマリーインフォーマントの役割が期待される地区高齢者を地区自治振興会長・長寿会長から紹介してもらい、①研究開発目標の説明、②プロジェクトB・Cの内容と方法の説明、③意見交換を行い、本研究に対する周知と理解を図った。

■プロジェクトC：コミュニティを対象とした歩行支援の実施と効果の評価

1. 座談会の実施

都市中心部における歩行圏コミュニティ実現の可能性、必要な対応策を検討するために、平成24年3月2日（金）に富山第一ホテルで星井町地区のうち商業中心地区（総曲輪地区）に隣接する町内会の高齢者10名と定例会メンバー10名で座談会を開催した。参加者は2グループに分かれ、①現在の外出頻度や外出内容、②歩行に関連する不都合さ、③本研究で実施する歩行支援に期待すること等を糸口に自由に議論した。ファシリテーターは定例会メンバーが務めた。

2. 「プロジェクトCの実施・評価計画（案）」の作成

プロジェクトCのグループリーダーが以下の項目に関する素案を作成し、定例会で「プロジェクトC実施・評価計画（案）」にまとめた。

(3) 研究開発結果・成果

■プロジェクトA：プロジェクトチームの結成と体制整備

歩行圏コミュニティ研究会と名付けたプロジェクトチームを組織した。先に示した図2の通り、多様な地域のステークホルダーの参加が得られた点が大きな成果であった。

研究会においては参加メンバーの相互理解の伸展を目指して会議を運営した。相互理

解に関する客観的な評価は行っていないが、研究会活動のプロセスを通し、①研究開発目標や実施内容を繰り返し検討するという作業により、本プロジェクトの目指すべき方向性、プロジェクトA・B・Cの繋がりや位置付けが明確になった点、②対面による意見交換に多くの時間を費やし、生の声で聞くことで参加メンバーの価値観、所属する組織・機関におけるメンバーの立場や業務がより深く理解できた点、さらに③前記した①、②の理解が進むにつれ本研究開発における自己の責務を認識することができた点から、今年度の研究会活動がプロジェクトメンバーの相互理解を促進し、関係性構築の基盤づくりに有用であったと評価できた。今後、このような要素（①目的を共有する、②相手の業務を理解する、③自己の責務を認識する）が、協働で行うプロジェクト事業の推進にどのような影響を及ぼすのか、検討していくことが必要である。

■歩行補助車のカスタマイズ

これまでに開発が終了していた一次試作機（写真1）は、高齢者の歩行支援に不可欠な立ち上がり機能や姿勢保持機能を有している点、操作性が高い点（まっすぐ進む、方向転換が容易、軽い等）、スタイリッシュな点、座面を有している点等が特徴であり、モニター調査においても良好な評価を得ていた。本プロジェクトで用いる歩行補助車はコミュニティ内に多数配置・使用するため、収納性を考慮し水平スタッキングが可能となるようにした。そのためスタッキング性能と走行性能の妥協点が重要な設計課題となった。受注メーカーから納品された試作品では、使用者の身体的特徴（身体寸法や歩行能力）、路面の状況（段差等）、歩行補助車に載せる荷物の量について悪条件が重なった場合、転倒する可能性が発覚した。安全な歩行を補助するための歩行補助車が転倒事故の原因となることは許されないため、車輪とハンドルの位置関係、荷物の取り付け位置を修正する必要があるため、それには当初計画の設計期間のあとに約1ヶ月の2次設計期間が必要となった。基本構造の検討に時間がかかり発注が遅延したため、平成23年度中の納品が困難になった（平成24年4月下旬～5月上旬に納品予定）。

■プロジェクトB：虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と効果の評価

1. 「プロジェクトBの実施・評価計画（案）」を作成した。その内容は以下のとおりであった。
 - 1) 対象の選定基準、選定方法
 - ①杖歩行可能以上のADLを有する等、複数条件を満たす高齢者
 - ②公募（社会実験モニター募集）
 - 2) 実施内容（介入内容）
 - ①歩行補助車を2か月間貸出し、日常生活の中で自由に使用してもらう。
 - ②貸出し時に使用貸借契約を結ぶ。
 - 3) 評価デザイン（評価項目、分析方法）

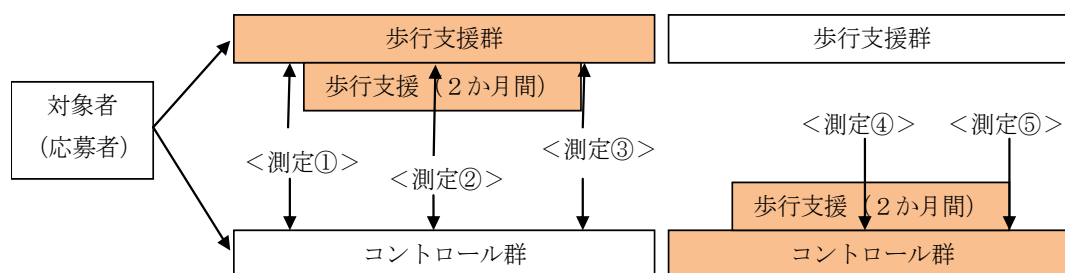


図3. プロジェクトBの評価デザイン

- ①対象者の性別と年齢と歩行速度による層別化無作為割付け比較試験（図3）。
- ②参加者決定後、1回目の測定（ベースライン調査）を実施する。
- ③測定方法と測定項目（評価項目）

計測	最大歩行速度、ファンクショナルリーチ、開眼片足立ち時間、長座体前屈、握力、重心動揺、歩行距離と歩行面積
問診	属性、身体的要因（日常生活自立度、生活機能）、心理的要因（主観的健康感、生きがい感、抑うつ傾向）、社会的要因（外出状況、交流の状況、地域への愛着や協力意識）、歩行補助車利用頻度、使用感

- ④歩行支援期間の中間に2回目、歩行支援終了時に3回目の測定を行う。測定項目はいずれもベースライン調査と同じ項目とする。
- ⑤介入群（歩行支援群）と統制群（コントロール群）のうち、測定①と測定③時点の両データが得られた者を分析対象とし、統計学的手法を用いて仮説の検証を行う。
- ⑥その後、統制群（コントロール群）にも介入群（歩行支援群）と同様の歩行支援を行う。
- ⑦歩行補助車の貸出しとメンテナンス、測定、苦情対応、メンタルサポート等のフォローは富山市角川介護予防センターに専用窓口を設けて行う。

4) 倫理的配慮

- ①参加に関わる説明と同意を徹底する。
- ②代表者が所属する大学の倫理審査委員会の承認を得る

2. プロジェクトBの実施・評価に必要な用紙類や物品等の準備

- ①測定用具の選定
- ②記録用紙の作成
- ③問診票の作成
- ④社会実験モニター募集マニュアルの作成
- ⑤研究参加説明書/同意書の作成
- ⑥歩行補助車使用貸借契約書の作成
- ⑦倫理審査委員会の承認申請に必要な書類の作成・申請

3. プライマリーインフォーマントとの関係づくり

プライマリーインフォーマントの役割が期待される地区高齢者に、①研究目標の説明、②プロジェクトB・Cの内容と方法、③意見交換を行い、本研究に対する周知を図った。意見交換時に、歩くことは高齢者にとって意義があること、器具を用いて歩くことに心理的抵抗が少なからずあること、近隣に歩行補助車の使用が望ましいと思う人が存在すること等が語られ、対象者募集に協力する意向を示す言葉が聞かれた。

■プロジェクトC：コミュニティを対象とした歩行支援の実施と効果の評価

1. 地区高齢者の歩行支援ニーズの把握

都市中心部における歩行圏コミュニティ実現の可能性、必要な対応策を検討するために、地区高齢者との座談会を開催した。その結果、以下に示す5項目（外出頻度、外出内容、外出手段、歩行に関連する不都合さ、本プロジェクトで実施する歩行支援に関するアイデア）について語られた。その内容（概要）は次のとおりであった。

- ①外出頻度→毎日
- ②外出内容→個人差はあるが個々人の外出範囲と内容は一定している
 - 外出内容は食料品の買い物が多い
 - 商業中心地区へ外出目的は交流（友達とお茶を飲む、孫とお出かけ等）
 - 経済的負担が少ないことは重要である
- ③外出手段→荷物があるときは車を使用するが、荷物がなければ徒歩で移動する
 - 駅前（1.5km程度）までなら自転車を使用するが、県民会館（1.0km程度）までなら徒歩で移動する
- ④歩行に関する不都合さ
 - 本人の身体状況（足腰の痛み等）
 - 道路環境（線路レールの溝、車道と歩道との段差や近さ等）
- ⑤歩行支援に関するアイデア
 - 歩くことの重要性は皆認識している
 - ただ歩くのではなく、楽しく歩きたい（ポイントをためる、途中の喫茶店でお茶を飲む、景色を楽しむ等、高齢者が楽しめる内容）
 - 老人会でも閉じこもりを防ぐために様々な企画を立てるものの、参加する人は決まっている
 - そのため、参加しない人へ如何に対応するかが重要
 - 地区の行事でも、「食」に関連する行事は参加率が高い

2. 「プロジェクトCの実施・評価計画（案）」を作成した。その内容は以下のとおりである。

1) 対象の選定基準、選定方法

- ①実施（介入）：地区住民全員（老若男女）を対象とする。
- ②評価：高齢者の健康増進については長寿会会員を評価対象とする。地域の社会資本の活性化については地域を対象とする。

2) 実施内容（介入内容）

- ①星井町地区と商業中心地区を結ぶ「ウォーキングコース」を設定する。
- ②そのコースを歩きたくなる工夫として「集う場」の提供およびその工夫、「チェックポイント」の設置等を行う。

③実施には歩行支援ツールの活用を含めること、高齢者のみではなく地区の人々が誰でもがそのコースを歩きたくなる内容とすることとする。詳細は研究会で協議をして決定し、平成24年9月～平成26年8月の期間に実施する。

3) 評価デザイン (評価項目、分析方法)

①前後比較デザイン (図4)

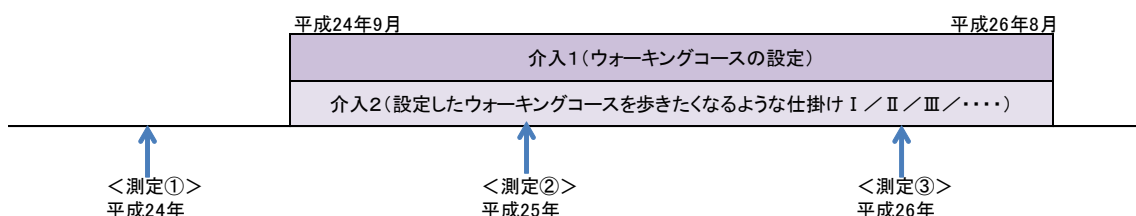


図4. プロジェクトCの評価デザイン

②測定方法と測定項目 (評価項目)

ターゲット	測定方法	測定項目 (評価項目)
高齢者の健康増進	記名式自記式質問紙調査	属性、身体的要因(日常生活自立度、生活機能)、心理的要因(主観的健康感、生きがい感、抑うつ傾向)、社会的要因(外出状況、交流の状況、地域への愛着や協力意識)、本プロジェクトに関する周知・意識・参加状況
地域の社会資本の活性化	既存資料の分析	①協働の状況(地区内団体における健康・福祉増進活動や社会経済活動の実施状況)、 ②派生の状況(本取り組みが富山市行政の中心市街地活性化事業、高齢者健康支援事業等に繋がった実績)

③平成24年、25年、26年の同月に測定を行う。測定項目はいずれの年度も同じ項目とする。

④得られたデータの分布を記述する。また、複数年の回答が得られた地区高齢者については回答の変化を対応のあるt検定やマクネマー検定等の統計的手法を用いて分析し、仮説の検証を行う。

4) 倫理的配慮

代表者が所属する大学の倫理審査委員会の承認を得る。

3. プロジェクトCの実施・評価に必要な用紙類や物品等の準備

①問診票の作成

②研究参加説明書/同意書の作成

③倫理審査委員会の承認申請に必要な書類の作成・申請

(4) 会議等の活動

年月日	名称	場所	概要
23.10.4	星井町地区関係打合せ	星井町地区センター	・プロジェクトの説明と協力依頼
23.10.4	富山市関係打合せ	角川介護予防センター	・プロジェクトの説明と協力依頼
23.10.14	第1回定例会	富山第一ホテル	・研究採択を伝え、今後の進め方を検討
23.10.26	富山市関係打合せ	富山市役所	・プロジェクトの説明と協力依頼
23.11.4	第1回カスタマイズ班会議	富山大学高岡キャンパス	・進捗状況確認と作業確認
23.11.8	第1回総括グループ打合せ	富山大学五福キャンパス	・第1回研究会準備
23.11.11	第2回定例会	富山第一ホテル	・第1回研究会の準備
23.11.11	第1回研究会	富山第一ホテル	・全体のキックオフ
23.11.11	第2回カスタマイズ班会議	富山大学高岡キャンパス	・進捗状況確認と作業確認
23.11.18	第3回カスタマイズ班会議	富山大学高岡キャンパス	・進捗状況確認と作業確認
23.11.25	第4回カスタマイズ班会議	富山大学高岡キャンパス	・進捗状況確認と作業確認
23.11.30	星井町地区関係打合せ	自治振興会長宅	・進捗状況の報告 ・第2回研究会打合せ
23.12.1	富山市関係打合せ	富山市役所	・進捗状況の報告 ・第2回研究会打合せ
23.12.2	第5回カスタマイズ班会議	富山大学高岡キャンパス	・進捗状況確認と作業確認
23.12.5	第2回総括グループ打合せ	富山大学五福キャンパス	・第2回研究会準備
23.12.5	星井町地区関係打合せ	体験発表者宅	・第2回研究会打合せ
23.12.6	富山市関係打合せ	富山市役所	・進捗状況の報告 ・第2回研究会打合せ
23.12.6	富山市関係打合せ	星井町地区センター	・進捗状況の報告 ・第2回研究会打合せ
23.12.9	H&Sプロモーション情報収集	(株)H&Sプロモーション会議室	・ICウォーキングシステムに関する情報収集

23.12.13	第2回研究会	富山第一ホテル 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ サイトビジット ・ 星井町地区住民との懇談会 ・ 研究関連地区視察 ・ 特別講演「富山市のまちづくり」 (富山市長 森雅志氏)
23.12.13	第3回定例会	富山第一ホテル 他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「評価」について検討
23.12.19	富山市関係打合せ	富山市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の報告
23.12.26	第4回定例会	富山大学五福キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回研究会の振り返り ・ プロジェクトの方向性確認
23.12.27	富山市関係打合せ	富山市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の報告
24.1.5	第6回カスタマ イズ班会議	富山大学高岡キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況確認と作業確認
24.1.6	星井町地区関係 打合せ	自治振興会長宅	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の報告
24.1.17	第2回総括グル ープ打合せ	富山大学五福キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3回研究会準備
24.1.20	第5回定例会	富山第一ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の確認 ・ 24年度計画
24.1.25	第7回カスタマ イズ班会議	富山大学高岡キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況確認と作業確認
24.1.30	第8回カスタマ イズ班会議	富山大学高岡キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況確認と作業確認
24.1.30	第6回定例会	富山まちなか研 究室	<ul style="list-style-type: none"> ・ 富山市中心市街地視察 ・ (株)まちづくりとやま担当者 との懇談会 ・ 星井町地区住民との懇談会 ・ 富山市政策担当者との懇談会
24.1.31	富山市関係打合 せ	角川介護予防セ ンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の報告 ・ 第7回定例会出席依頼
24.2.14	富山市関係打合 せ	富山市役所	<ul style="list-style-type: none"> ・ 進捗状況の報告 ・ 第7回定例会出席依頼進捗状況 の報告
24.2.23	第7回定例会	富山大学五福キ ャンパス	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別講演「ICウォークの考え 方と実践応用」(H&Sプロモー ション 関氏) ・ ICウォーク導入の検討
24.3.2	第3回研究会	富山第一ホテル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 星井町地区高齢者へプロジェクト の説明と協力依頼 ・ 特別講演「歩行補助車のまちづ

			くりへの応用」
24.3.30	第8回定例会	富山大学五福キャンパス	・第3回研究会の振り返り ・24年度計画

4. 研究開発成果の活用・展開に向けた状況

前記したとおり、地域の多様なステークホルダーとの研究会ならびに打合せ会を随時開催し、問題意識の共有化と協力意向の醸成を図っている。また、関係者との協働を意識しつつプロジェクト事業を進めている。

5. 研究開発実施体制

(1) 総括グループ

- ① リーダー名：中林美奈子（富山大学大学院医学薬学研究部地域看護学講座・准教授）
- ② 実施項目：研究調整と全体総括、プロジェクトチームの結成と体制整備

(2) 歩行補助車のカスタマイズグループ

- ① リーダー名：河原雅典（富山大学芸術文化学部・准教授）
サブリーダー名：木下功士（富山大学工学部・研究員）
- ② 実施項目：歩行補助車のカスタマイズと管理

(3) 虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と評価グループ

- ① リーダー名：鳥海清司（富山大学人間発達科学部・教授）
- ② 実施項目：虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と評価

(4) コミュニティを対象とした歩行支援の実施と評価グループ

- ① （実施班）
リーダー名：丸谷芳正（富山大学芸術文化学部・教授）
- （評価班）
リーダー名：新鞍真理子（富山大学大学院医学薬学研究部老年看護学・准教授）
- ② 実施項目：コミュニティを対象とした歩行支援の実施と評価

6. 研究開発実施者

研究グループ名：総括グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
○	中林美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	全体総括
	丸谷芳正	マルヤ ヨシマサ	富山大学芸術文化学部	教授	コミュニティを対象とした歩行支援の実
	鳥海清司	トリウミ キヨシ	富山大学人間発達科学部	教授	虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実
	新鞍真理子	ニイクラ マリコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	コミュニティを対象とした歩行支援の実
	河原雅典	カワハラ マサノリ	富山大学芸術文化学部	准教授	自立支援歩行補助車のカスタマイズ
	木下功士	キノシタ コウジ	富山大学工学部	研究員	自立支援歩行補助車のカスタマイズ
	永井嘉隆	ナガイ ヨシタカ	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	研究組織運営支援
	梶護	カジ マモル	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	研究組織運営支援
	鏡森定信	カガミモリ サダノブ	富山産業保健推進センター	所長	研究組織運営支援
	成瀬優知	ナルセ ユウチ	富山大学医学薬学研究部(医学)	教授	研究組織運営支援
	鳴尾明子	ナルオ アキコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	研究組織運営支援
	寺西敬子	テラニシ ケイコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	研究組織運営支援

研究グループ名：自立支援歩行補助車のカスタマイズグループ

	氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
	中林美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	モニタリング
	丸谷芳正	マルヤ ヨシマサ	富山大学芸術文化学部	教授	自立支援歩行補助車のカスタマイズ、
	鳥海清司	トリウミ キヨシ	富山大学人間発達科学部	教授	モニタリング
	新鞍真理子	ニイクラ マリコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	モニタリング
○	河原雅典	カワハラ マサノリ	富山大学芸術文化学部	准教授	総括
	木下功士	キノシタ コウジ	富山大学工学部	研究員	自立支援歩行補助車のカスタマイズ、
	永井嘉隆	ナガイ ヨシタカ	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	関係機関との調整
	梶護	カジ マモル	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	関係機関との調整
	鏡森定信	カガミモリ サダノブ	富山産業保健推進センター	所長	モニタリング
	成瀬優知	ナルセ ユウチ	富山大学医学薬学研究部(医学)	教授	モニタリング
	鳴尾明子	ナルオ アキコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	モニタリング
	寺西敬子	テラニシ ケイコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	モニタリング

研究グループ名：虚弱高齢者を対象とした歩行支援の実施と評価グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
	中林美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	住民組織・関係機関との調整
	丸谷芳正	マルヤ ヨシマサ	富山大学芸術文化学部	教授	対象者募集・データ収集・データ分析
○	鳥海清司	トリウミ キヨシ	富山大学人間発達科学部	教授	総括
	新鞍真理子	ニイクラ マリコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	対象者募集・データ収集・データ分析
	河原雅典	カワハラ マサノリ	富山大学芸術文化学部	准教授	対象者募集・データ収集・データ分析
	木下功士	キノシタ コウジ	富山大学工学部	研究員	対象者募集・データ収集・データ分析
	永井嘉隆	ナガイ ヨシタカ	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	対象者募集・データ収集・データ分析
	梶護	カジ マモル	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	対象者募集・データ収集・データ分析
	鏡森定信	カガミモリ サダノブ	富山産業保健推進センター	所長	データ分析指導
	成瀬優知	ナルセ ユウチ	富山大学医学薬学研究部(医学)	教授	データ分析指導
	鳴尾明子	ナルオ アキコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	対象者募集・データ収集・データ分析
	寺西敬子	テラニシ ケイコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	対象者募集・データ収集・データ分析

研究グループ名：コミュニティを対象とした歩行支援の実施グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
	中林美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	住民組織・関係機関との調整
○	丸谷芳正	マルヤ ヨシマサ	富山大学芸術文化学部	教授	総括
	鳥海清司	トリウミ キヨシ	富山大学人間発達科学部	教授	歩行支援事業の企画・実施
	新鞍真理子	ニイクラ マリコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	歩行支援事業の企画・実施
	河原雅典	カワハラ マサノリ	富山大学芸術文化学部	准教授	歩行支援事業の企画・実施
	木下功士	キノシタ コウジ	富山大学工学部	研究員	歩行支援事業の企画・実施
	永井嘉隆	ナガイ ヨシタカ	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	歩行支援事業の企画・実施
	梶護	カジ マモル	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	歩行支援事業の企画・実施
	鏡森定信	カガミモリ サダノブ	富山産業保健推進センター	所長	歩行支援事業の企画・実施
	成瀬優知	ナルセ ユウチ	富山大学医学薬学研究部(医学)	教授	歩行支援事業の企画・実施
	鳴尾明子	ナルオ アキコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	歩行支援事業の企画・実施
	寺西敬子	テラニシ ケイコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	歩行支援事業の企画・実施

研究グループ名：コミュニティを対象とした歩行支援の評価グループ

	氏名	フリガナ	所属	役職(身分)	担当する研究開発実施項目
	中林美奈子	ナカバヤシ ミナコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	住民組織・関係機関との調整
	丸谷芳正	マルヤ ヨシマサ	富山大学芸術文化学部	教授	データ収集・データ分析
	鳥海清司	トリウミ キヨシ	富山大学人間発達科学部	教授	データ収集・データ分析
○	新鞍真理子	ニイクラ マリコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	准教授	総括
	河原雅典	カワハラ マサノリ	富山大学芸術文化学部	准教授	データ収集・データ分析
	木下功士	キノシタ コウジ	富山大学工学部	研究員	データ収集・データ分析
	永井嘉隆	ナガイ ヨシタカ	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	データ収集・データ分析
	梶護	カジ マモル	富山大学地域連携推進機構	コーディネーター	データ収集・データ分析
	鏡森定信	カガミモリ サダノブ	富山産業保健推進センター	所長	データ分析指導
	成瀬優知	ナルセ ユウチ	富山大学医学薬学研究部(医学)	教授	データ分析指導
	鳴尾明子	ナルオ アキコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	データ収集・データ分析
	寺西敬子	テラニシ ケイコ	富山大学医学薬学研究部(医学)	助教	データ収集・データ分析

7. 研究開発成果の発表・発信状況、アウトリーチ活動など

7-1. ワークショップ等

年月日	名称	場所	参加人数	概要
24.3.2	「高齢者が歩いて暮らせるまちづくり」座談会	富山第一ホテル	20人	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者：星井町地区長寿会会員と研究開発実施者との座談会 ・目的：地域高齢者の歩行ニーズの把握

7-2. 社会に向けた情報発信状況、アウトリーチ活動など
 該当なし

7-3. 論文発表（国内誌 0 件、国際誌 0 件）

7-4. 口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ① 招待講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）
- ② 口頭講演（国内会議 0 件、国際会議 0 件）
- ③ ポスター発表（国内会議 0 件、国際会議 0 件）

7-5. 新聞報道・投稿、受賞等

- ① 新聞報道・投稿
 該当なし
- ② 受賞
 該当なし
- ③ その他
 該当なし